

2009年3月期
第3四半期決算説明会

2009年2月4日
ヤマハ株式会社

2009/3期 3Q決算の概要



3Qの外部環境

- 10～12月の景況感は2Q時点より一段の悪化
- 急速な円高の進行

3Q(10～12月)の状況

- 急速な業績の悪化に伴い、緊急対応組織として「経営改革委員会」発足
- 対前年同期大幅な減収減益。対前回予想(10/31発表)では減収増益
- 売上高は、対前回予想5.5%(69億円)の減収。為替影響(▲2億円)を除けば、前回予想に対し、5.3%(67億円)の実質減収。
対前年同期では、為替影響(▲146億円)を除いた実質ベースで9.9%(147億円)の減収。リビン
グを除く全セグメントで減収
- 営業利益は、対前年同期では減益となるものの、対前回予想では経費削減効果と為替益により、22億円の増益

1～3Qの状況

- 対前年同期、減収減益
- 売上高は、事業譲渡影響(▲143億円)、為替影響(▲237億円)を除いた実質ベースで、前年同期比5.2%(215億円)の減収
- 営業利益は、前年同期比 37.4%(133億円)の減益。減収に加え、為替損(19億円)の発生等による

2009/3期 3Q業績概要



▶ 対前回予想減収増益。対前年同期では減収減益

(億円)

	08/3 (3Q) 実績	09/3 (3Q) 実績	前年 同期比	前回予想 (08/10/31)	前回予想比
売上高	1,482	1,189	▲19.8%	1,258	▲5.5%
営業利益 (営業利益率)	142	89 (7.5%)	▲37.4%	67	+32.8%
経常利益 (経常利益率)	137	77 (6.5%)	▲43.8%	57	+35.3%
当期利益 (当期利益率)	114	50 (4.2%)	▲56.4%	26	+90.7%

為替レート

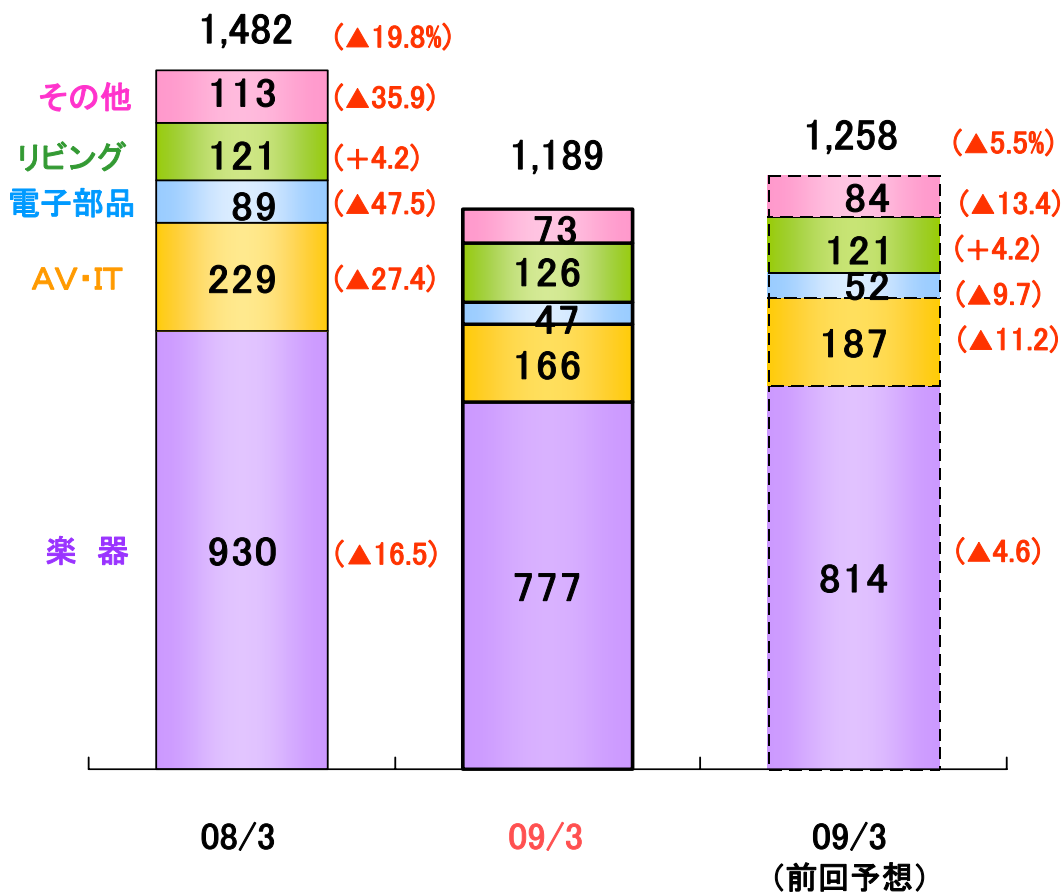
(円)

売上高	US\$	113	96	95
	EUR	164	127	120
利益	US\$	114	100	95
	EUR	159	163	162

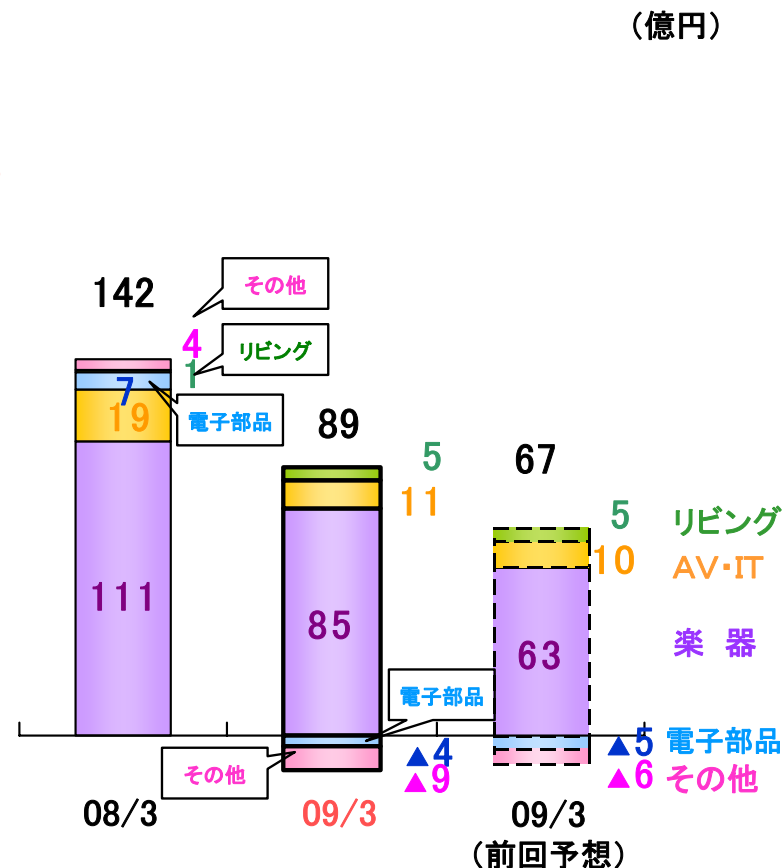
2009/3期 3Q事業別業績



売上高



営業利益



()内は前年同期比
または
前回予想比

前年同期との比較での為替影響は▲146億円
(楽器▲115億円、AV・IT▲31億円)
また、前回予想との比較では▲2億円
(楽器▲3億円、AV・IT+1億円)

前年同期との比較での為替影響は▲11億円
(楽器▲21億円、AV・IT+10億円)
また、前回予想との比較では+6億円
(楽器+7億円、AV・IT▲1億円)

4Qの事業環境

■マクロ経済の更なる悪化

- ・米国発の景気減速は、欧州に続き、新興市場にも徐々に波及
- ・法人向けビジネスでは、一段の受注減少
(自動車関連、携帯電話関連、アミューズメント関連事業等)

■更なる円高の進行

4Qの状況と施策

■楽器は減収に加え、ピアノを中心とする減産影響により営業益下方修正

■法人向けビジネスの半導体、部品事業は受注減少により前回予想を大幅下方修正

■収益改善施策の継続

- ・経費の見直し、削減、コストダウン
- ・楽器を中心に販売価格の引き上げによる利益の拡大
- ・設備投資、研究開発費用の見直し
- ・減産による在庫管理の徹底

通期の業績見込み

■2Q発表の前回予想を更に下方修正

■当期利益は、税効果影響で税負担が増加し、通期20億円の赤字決算を予想

2009/3期 4Q業績予想



➤4Qは対前回予想大幅な減収減益の計画

(億円)

	08/3 (4Q) 実績	09/3 (4Q) 予想	前年 同期比	前回予想 (08/10/31)	前回予想比
売上高	1,199	956	▲20.2%	1,117	▲14.4%
営業利益	▲27	▲107	—	▲55	—
経常利益	▲27	▲115	—	▲60	—
当期利益	▲26	▲113	—	▲55	—

為替レート

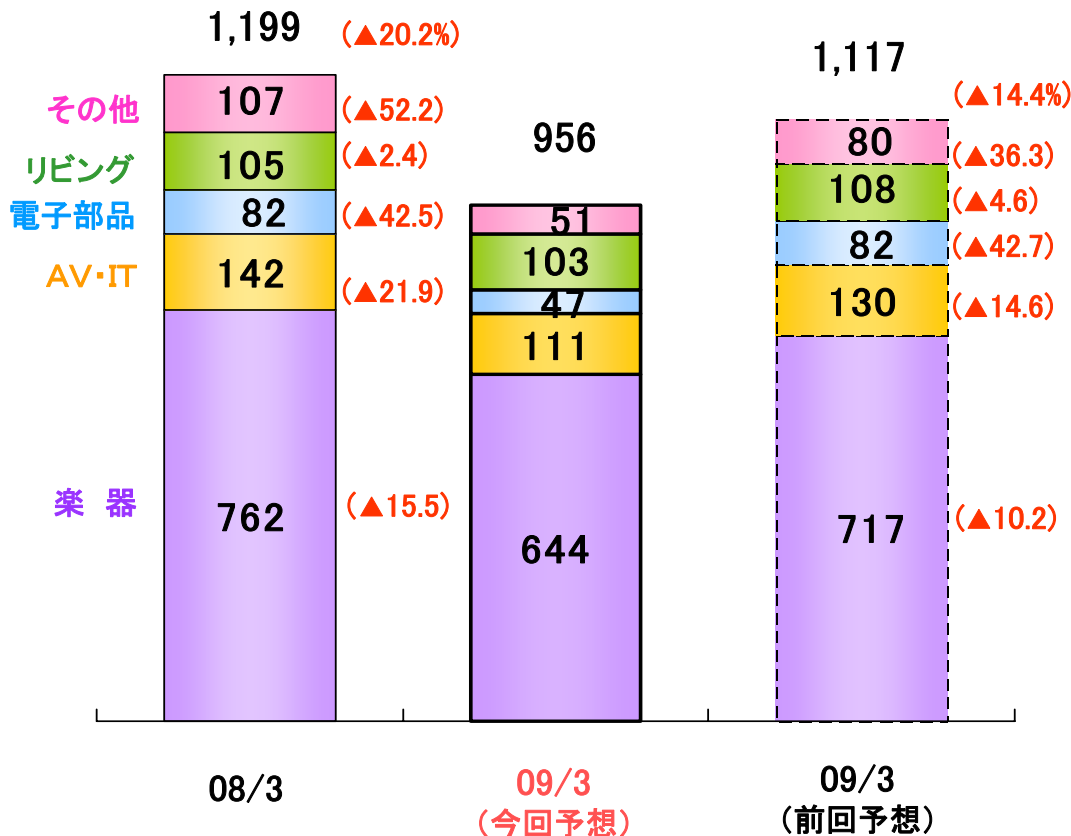
(円)

売上高	US\$	105	95	95
	EUR	158	120	120
利益	US\$	108	95	95
	EUR	159	129	132

2009/3期 4Q事業別業績予想



売上高

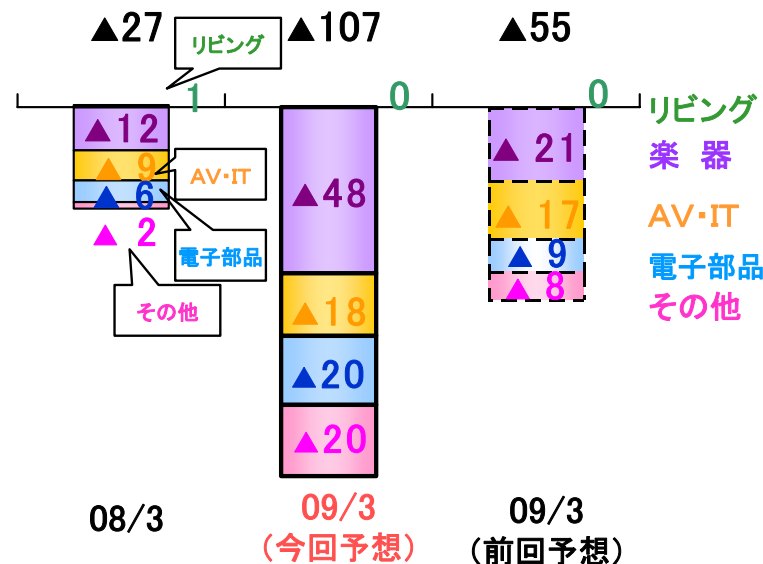


()内は前年同期比
または
前回予想比

前年同期との比較での為替影響は▲100億円
(楽器▲80億円、AV・IT▲20億円、半導体▲1億円)
また、前回予想との比較では▲20億円
(楽器▲17億円、AV・IT▲3億円)

営業利益

(億円)



前年同期との比較での為替影響は▲34億円
(楽器▲30億円、AV・IT▲5億円)
また、前回予想との比較では▲1億円
(楽器▲2億円)

2009/3期 通期業績予想



- 4Q為替レートは、US\$=95円、EUR=120円を前提
- 通期業績は前回予想に対し減収減益。最終赤字を予想

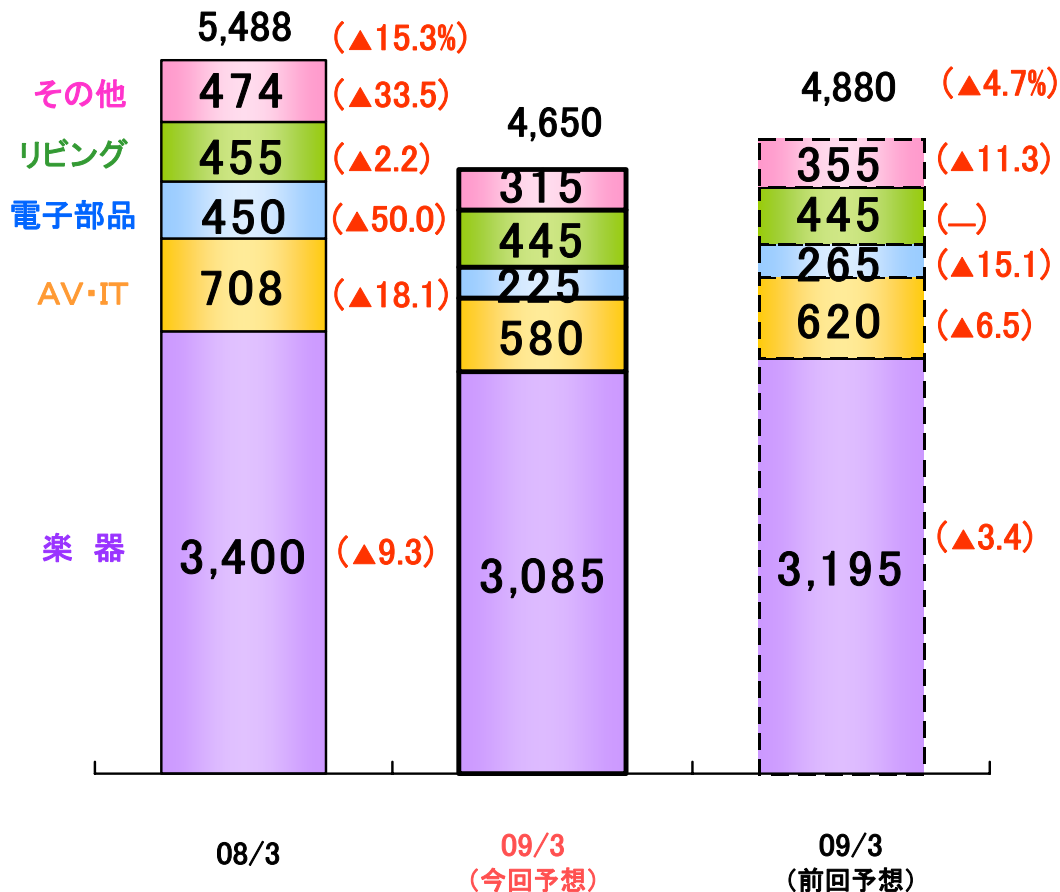
	(億円)					(%)	
	1Q~3Q 実績	4 Q 予想	09/3期 (今回予想)	09/3期 (前回予想)	08/3期 実績	前回予想 変化率	前年実績 変化率
売上高	3,694	956	4,650	4,880	5,488	▲4.7%	▲15.3%
営業利益 (営業利益率)	222 (6.0%)	▲107	115 (2.5%)	145 (3.0%)	328 (6.0%)	▲20.7%	▲65.0%
経常利益 (経常利益率)	210 (5.7%)	▲115	95 (2.0%)	130 (2.7%)	326 (5.9%)	▲26.9%	▲70.8%
当期利益 (当期利益率)	93 (2.5%)	▲113	▲20	15 (0.3%)	396 (7.2%)	—	—

為替レート		(円)				
		1Q~3Q 実績	4 Q 予想	09/3期 (今回予想)	09/3期 (前回予想)	08/3期 実績
売上高	US\$	103	95	101	102	114
	EUR	151	120	143	145	162
利益	US\$	104	95	103	101	116
	EUR	159	129	153	154	159

2009/3期 通期事業別業績予想



売上高

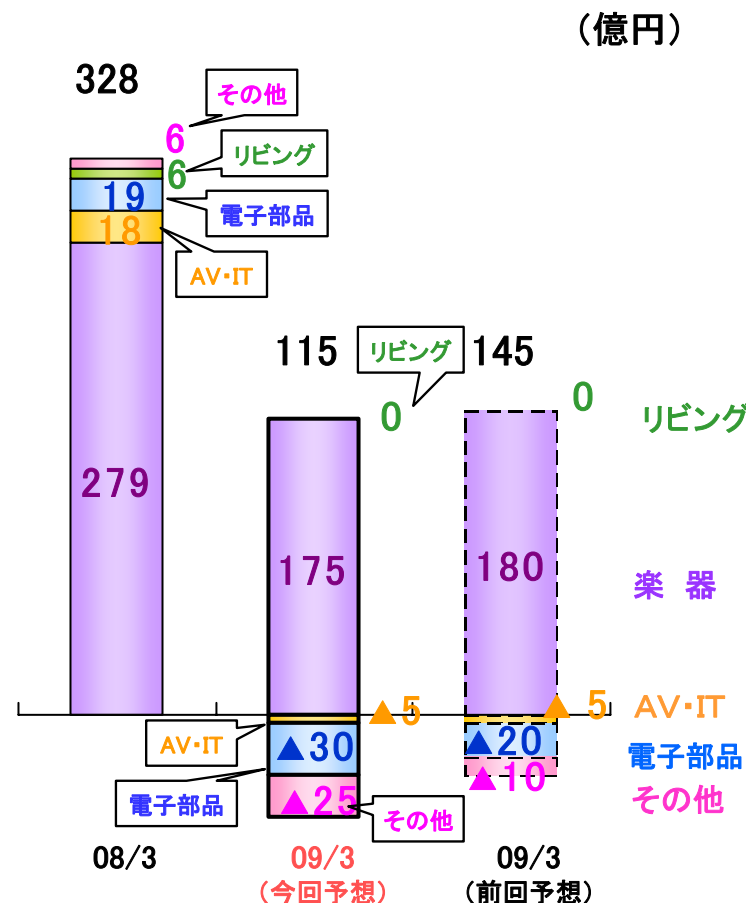


()内は前期比
または
前回予想比

前期との比較での為替影響は▲337億円
(楽器▲266億円、AV・IT▲68億円、半導体▲3億円)
また、前回予想との比較では▲22億円
(楽器▲20億円、AV・IT▲2億円)

*08/3期の電子部品には、電子金属を含む

営業利益



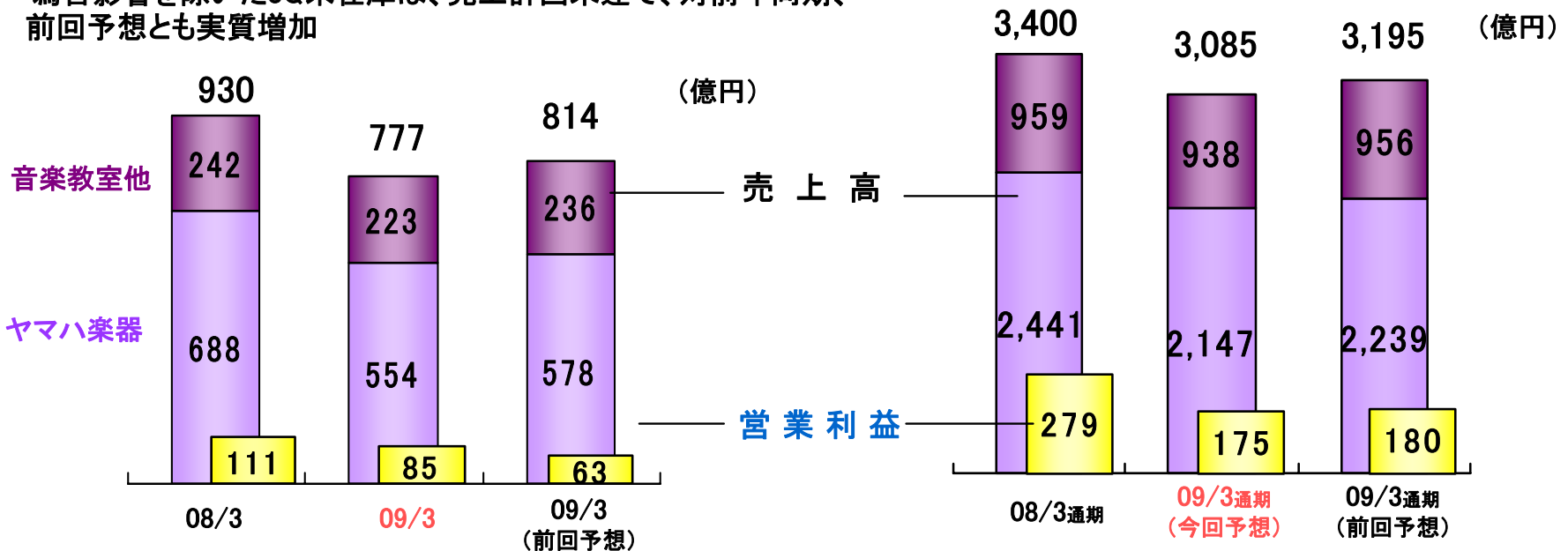
前期との比較での為替影響は▲53億円
(楽器▲58億円、AV・IT+3億円、半導体+1億円)
また、前回予想との比較では+5億円
(楽器+5億円、AV・IT▲1億円)

3Qの状況

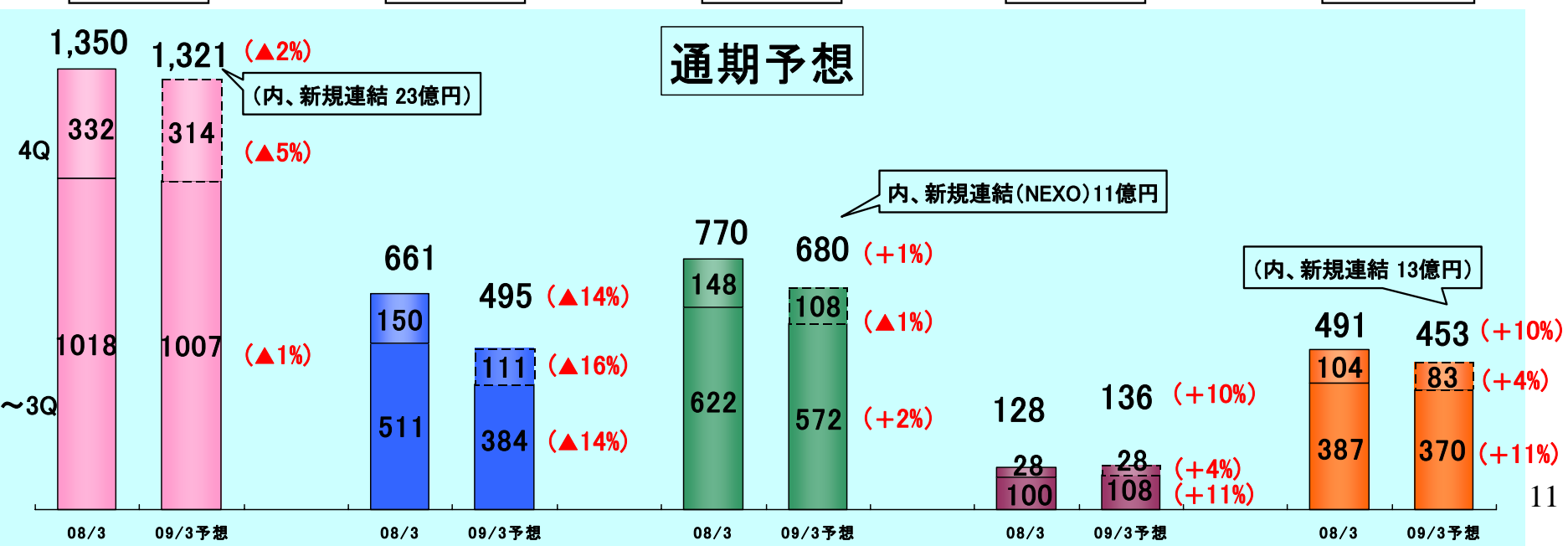
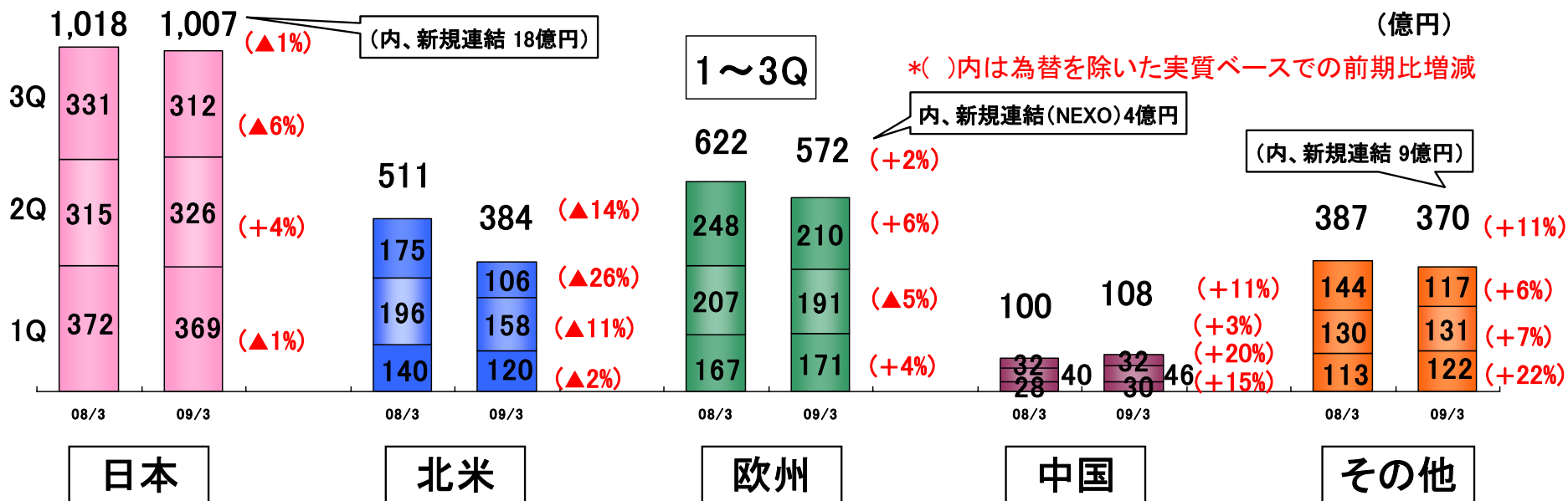
- ・対前年同期減収減益。対前回予想では減収増益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、新規連結15億円を含め前年同期比4.1% (38億円) の減収。前回予想との比較では、北米の不振で実質4.2%の減収
- ・北米市場では対前年同期でピアノを中心に、実質26%の大幅な減収。欧州は前年同期比6%の増収 (新規連結売上高4億円)
- ・中国を含めた新興市場は増収継続。但し増収幅は縮小
- ・商品別には、PA機器が対前年同期増収。一方、ピアノが北米、国内を中心に苦戦継続
- ・営業利益は、対前年同期減益となるものの、経費削減効果と為替益で対前回予想増益。
- ・為替影響を除いた3Q末在庫は、売上計画未達で、対前年同期、前回予想とも実質増加

通期の状況と4Q重点施策

- ・通期では前回予想に対し減収減益の計画
- ・為替影響を除いた実質売上高は、新規連結51億円を含め、前期比1.4% (49億円) の減収計画
- ・コストダウンと経費削減の実施、販売価格の引き上げによる損益改善
- ・ピアノを中心に在庫水準の適正化
- ・タイムリーな新商品の開発



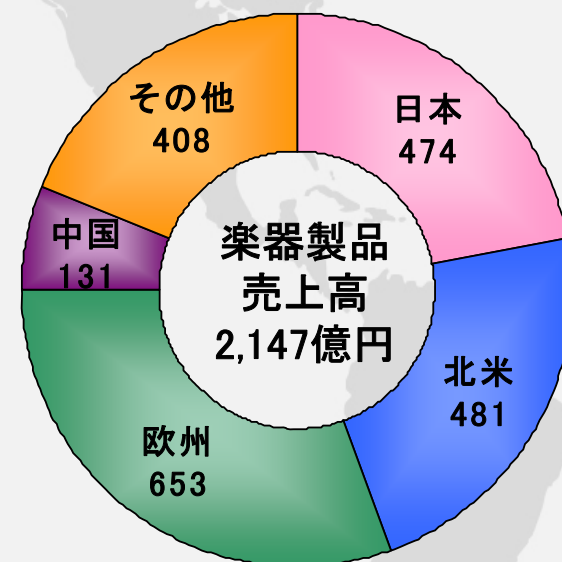
楽器事業(地域別の販売状況)



楽器事業(地域別の販売状況)

楽器地域別状況	
日本	ピアノを中心とする大型鍵盤楽器の不振が顕著。通期では新商品を投入した電子ピアノでキャッチアップを図るも、落込みをカバー出来ず。
北米	住宅不況、金融不安からピアノなど大型・高額商品の苦戦続き、10月以降は更に悪化。ギターは概ね堅調を維持するも、ポータブルキーボード・シンセサイザーは不振。
欧州	金融危機以降、東欧での売上成長はスローダウンしたが、10-12月期に年末商戦向けキーボードの拡販で上半期の減収分をカバーし、欧州全体では前期並みまで挽回。商品ではピアノ・電子ピアノは前期並みだが、管楽器とシンセサイザーが苦戦。
中国	世界的な経済危機の影響を受け内需の成長鈍化あるも、楽器販売は2桁成長を継続。商品別にはピアノ、電子ピアノ、ギターが大きく伸びたが、ポータブルキーボードが苦戦。PA機器も需要減速で期待に届かず。
その他の地域	アジア、中南米の各地域で成長基調は維持するものの、世界経済の減速影響を受け、伸びは減速。韓国、オーストラリアは為替影響を価格の改定で対応。

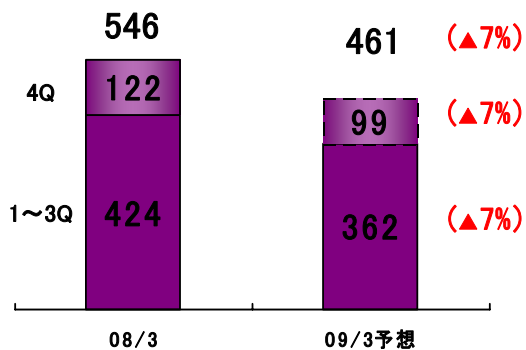
楽器製品売上高
の地域別内訳



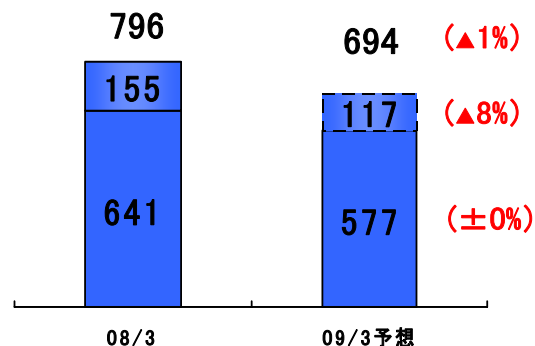
楽器製品売上高の商品群別販売状況



(億円) ピアノ



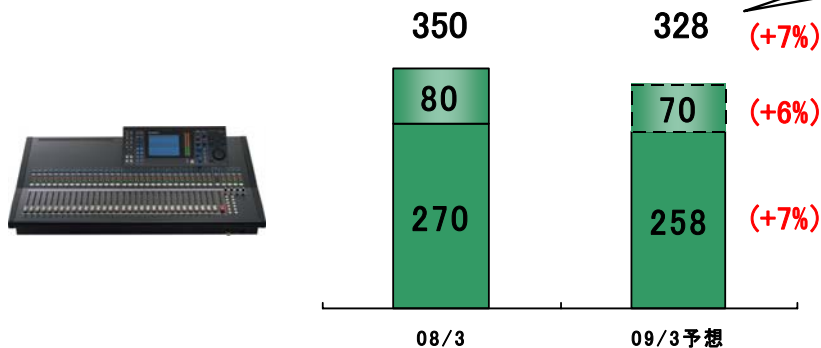
電子楽器



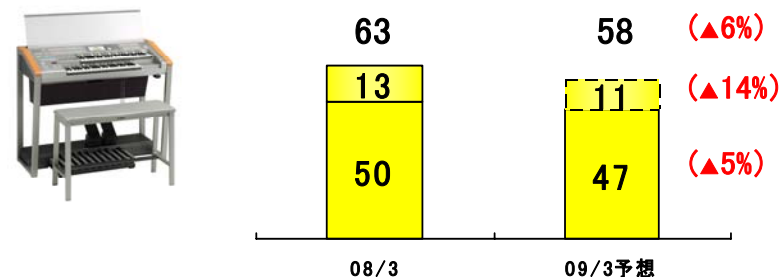
*()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減

PA機器

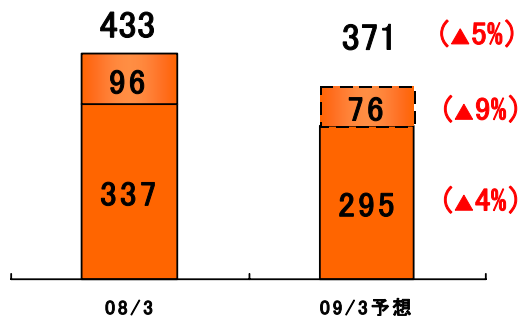
NEXO 14億円



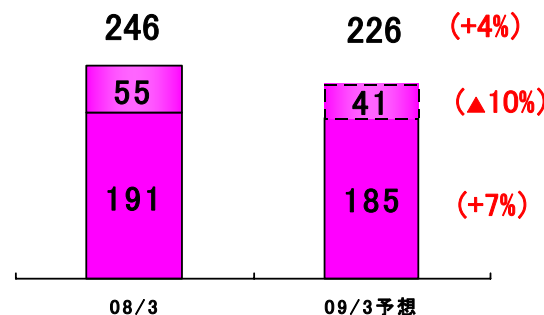
エレクトーン



管楽器



弦打楽器



楽器事業(商品群別の販売状況)



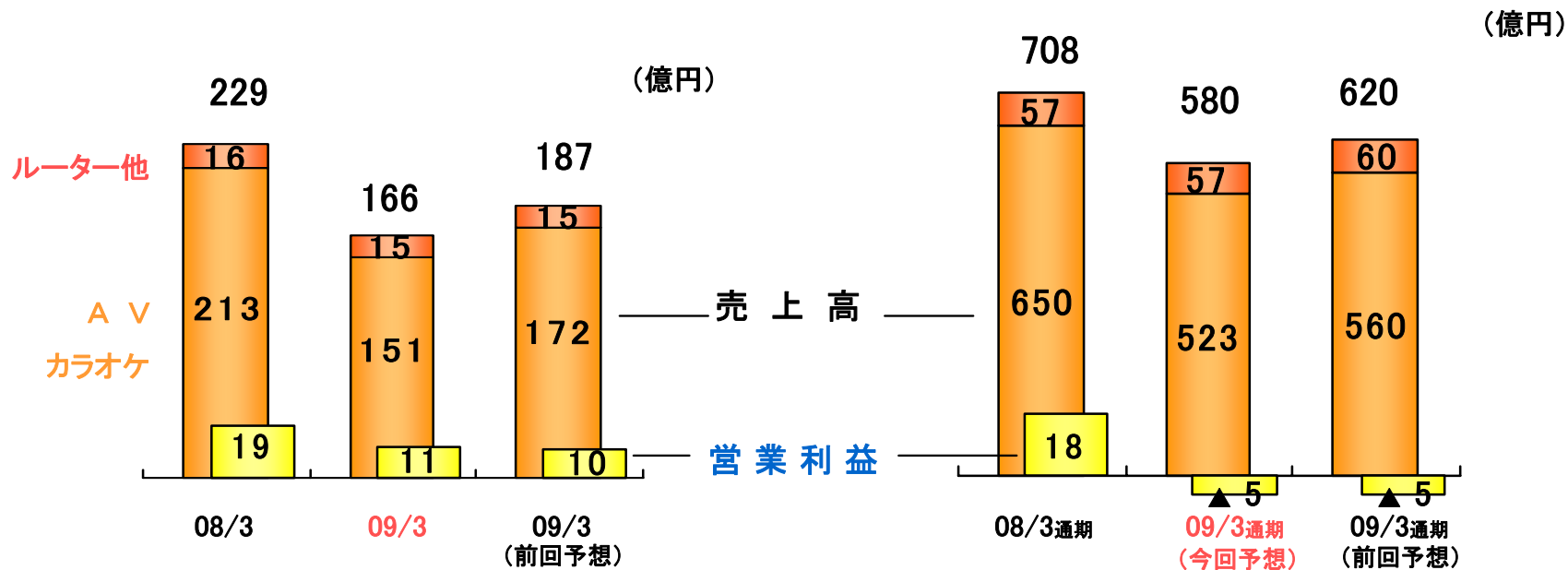
	商品群別販売状況
ピアノ	北米は住宅影響、日本は消費の低迷を受け、各々大幅に需要減少。欧州は堅調を維持、中国市場では成長を継続しているが、伸びは低下傾向。
電子楽器	北米、日本での電子ピアノ・ポータブルキーボード・シンセサイザーの落ち込みを欧州やアジア・パシフィック地域でカバーし、前年同期並みを維持している状況。ただ欧州も徐々に厳しくなっている。
管楽器	北米での販売は普及品スロー。欧州・日本は停滞感あるもアジア・中国は対前年同期で伸長。全体的に普及価格帯が不振。
ギター・ドラム	全地域で堅調に推移。アコースティックギターは欧米・アジアの各地域で販売伸長。電子ドラムは北米で大幅伸長。
PA機器	景気減速の中、納入物件の減少や規模縮小が見られ、主力デジタルミキサーの販売にも影響。アンプ・スピーカーなど出力系商品群では増収となるものの、全体では販売減少となる。また、楽器市場向けのポータブルPAシステムなど定番商品は堅調。

3Qの状況

- ・対前年同期減収減益。対前回予想では減収増益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、前年同期比14.0%(32億円)の減収
- ・北米、欧州の実質売上高は対前年同期2桁の減収
- ・営業利益は、売り上げ減少に伴い、対前年同期減益となるものの、前回予想との比較では、経費削減効果等により微増
- ・3Q末在庫は、為替影響を除いた実質ベースでは、対前年同期若干の増加

通期の状況と4Q重点施策

- ・通期売上高を更に下方修正。営業赤字は5億円で前回予想を据え置き
- ・為替要因を除いた実質売上高は対前期8.5%(60億円)の減収予想
- ・フロントサラウンドシステム強化拡大
- ・iPodドックスピーカー等デスクトップオーディオ、ゼネラルオーディオ新商品のスムーズな市場導入
- ・会議システムは引き続き、認知度向上と販路開拓に注力

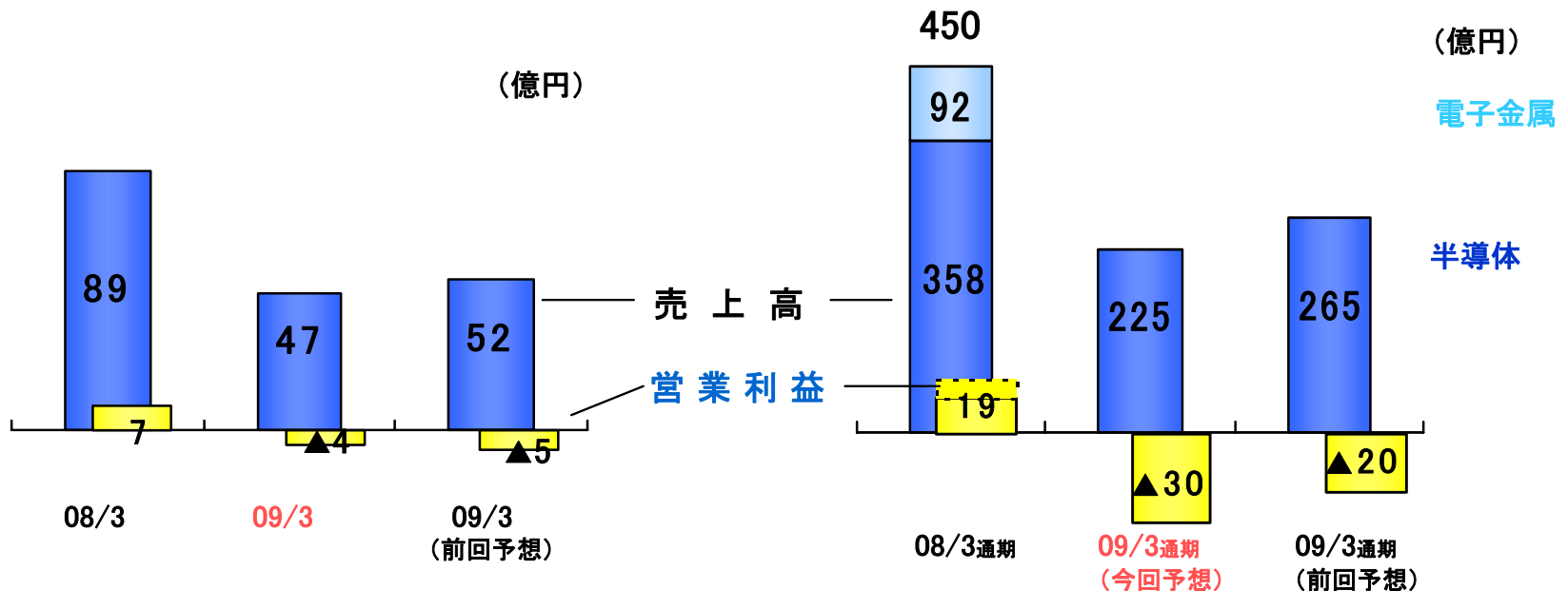


3Qの状況

- ・対前年同期減収減益。対前回予想でも減収
- ・国内携帯電話販売の減少により、携帯電話用音源LSIは、一段の需要減少。
アミューズメントLSIも市場の低迷により不振
- ・売り上げの未達で3Q末在庫が増加

通期の状況と4Q重点施策

- ・通期売上高、営業利益とも前回予想を更に下方修正
- ・携帯電話用音源LSIおよびアミューズメントLSIの需要減少が主因
- ・生産調整による在庫適正化
- ・デジタルアンプ拡販

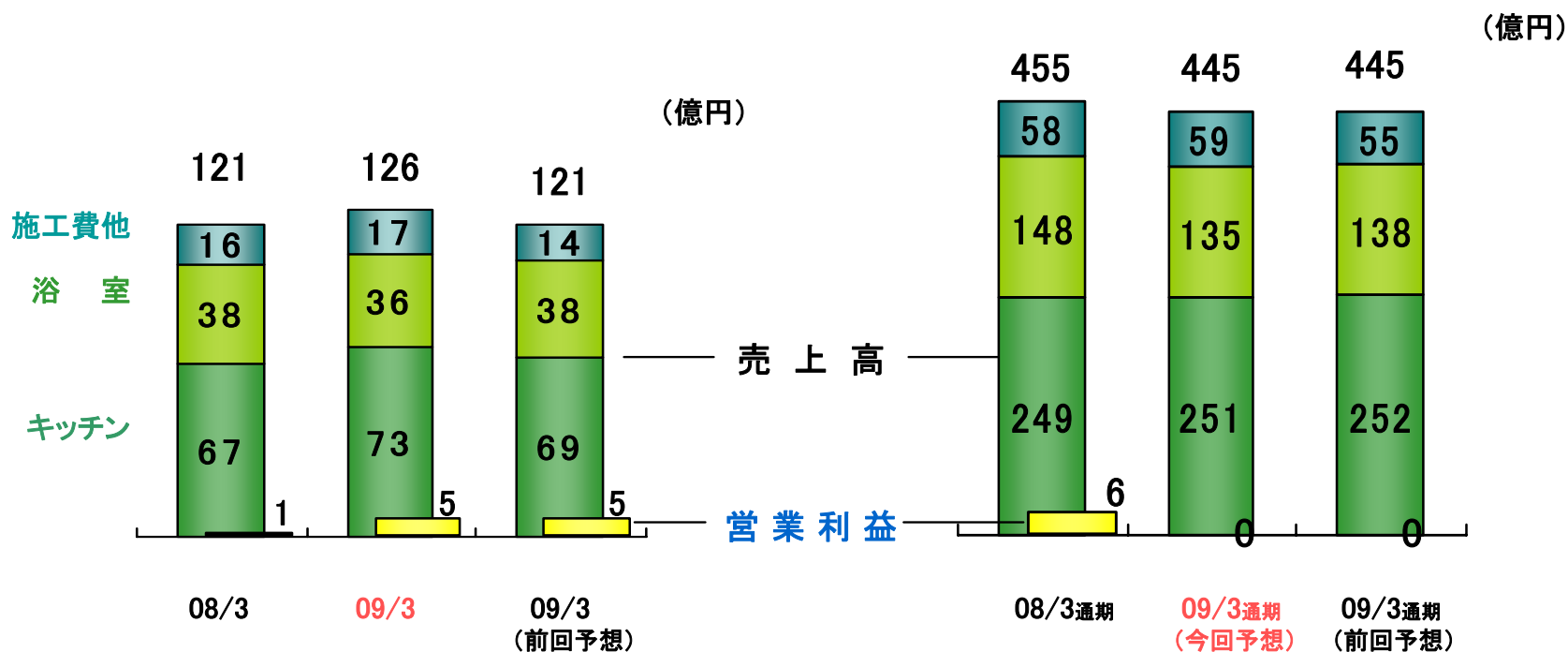


3Qの状況

- ・新築住宅着工数の増加と住宅ローン減税効果による駆け込み需要で、対前年同期増収増益。対前回予想でも増収
- ・期待のリフォーム比率は、1～3Q(4～12月)で、ほぼ前年同期並みの22%
- ・3Q(10～12月)のキッチン売上高は、対前年同期、前回予想とも増収。
一方、浴室は対前年同期、前回予想とも減収

通期の状況と4Q重点施策

- ・通期売上高、営業利益とも前回予想を据置
- ・販路開拓、ショールーム展開によるリフォームビジネス強化継続
- ・強みとする人造大理石訴求により、システムキッチン拡販
- ・引き続き経費削減と材料価格の引下げ、生産工程合理化による製造コストダウン推進



その他の事業

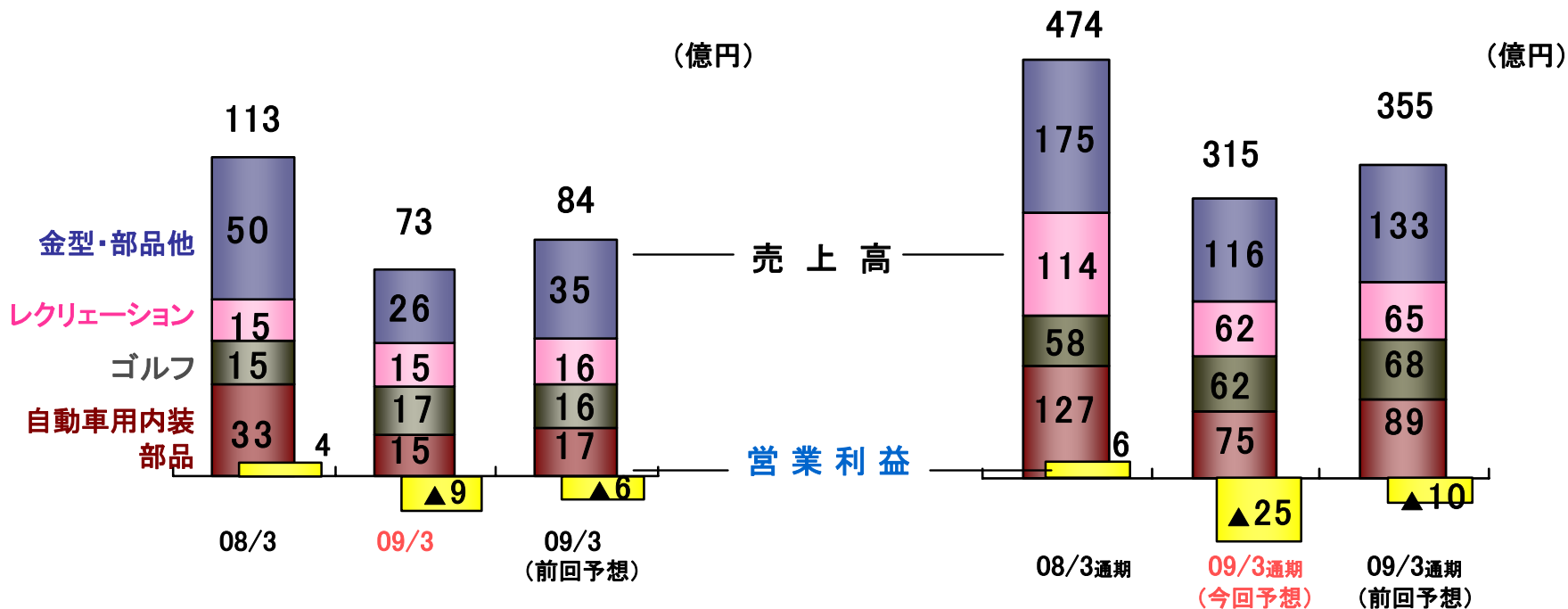


3Qの状況

- ・対前年同期、前回予想とも減収減益
- ・自動車用内装部品、マグネシウム部品とも、完成品メーカーの急激な減産により、対前年同期大幅な減収。対前回予想でも減収
- ・ゴルフは前回予想を上回るものの、景況感を反映し、漸減傾向

通期の状況と4Q重点施策

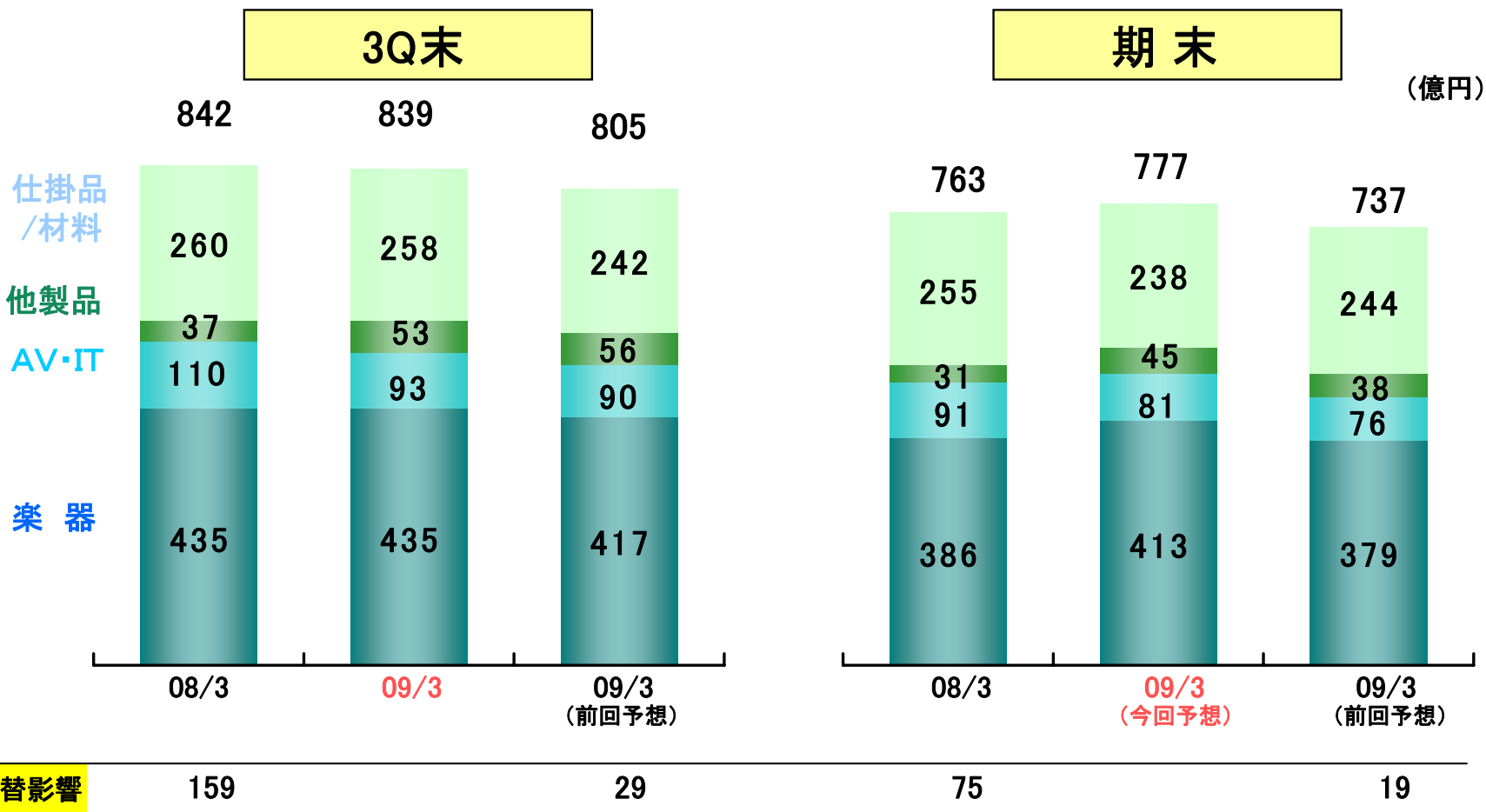
- ・自動車用内装部品、マグネシウム部品、FAとも完成品メーカーからの一段の受注減少で、前回予想を更に下方修正
- ・自動車用内装部品は損益分岐点引き下げ。マグネシウム部品は歩留り改善による製造原価の低減に注力
- ・レクリエーションは、集客確保とコスト削減努力により収益改善を目指す



棚卸資産

➤ 12月末在庫額は前年同期並みだが、為替要因を除けば楽器、半導体を中心に実質156億円の増加。また、前回予想に対しては、為替影響を除けば、実質63億円の増加

➤ 3月末在庫は対前期末、実質89億円の増加



設備投資・減価償却費/研究開発費

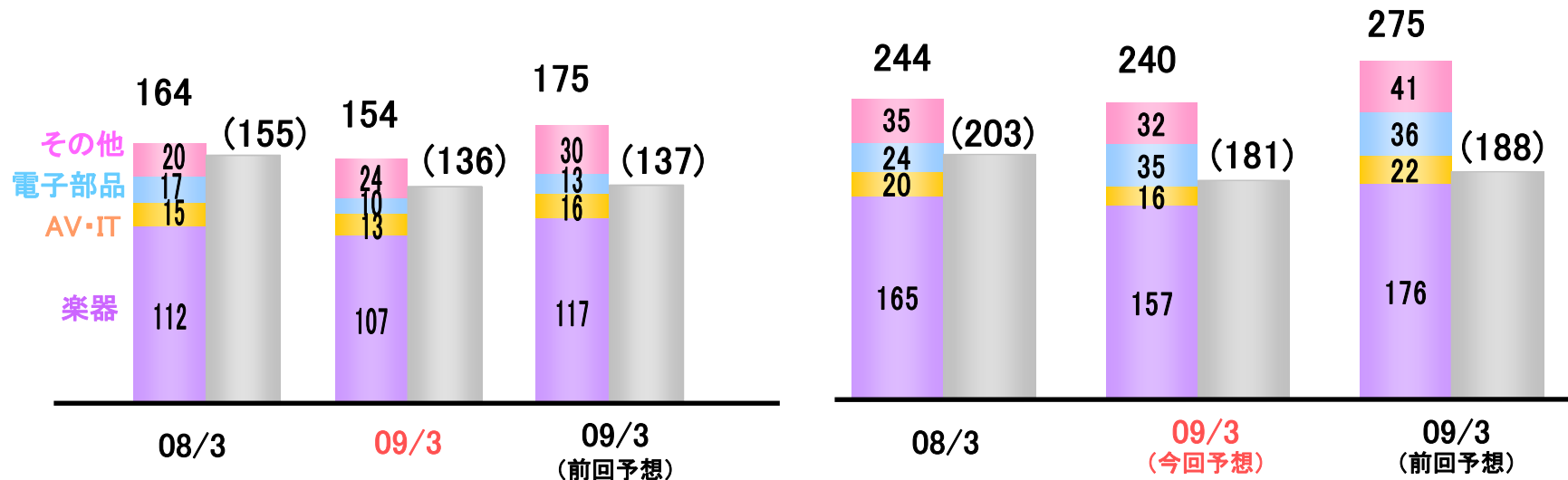


設備投資 (減価償却費)

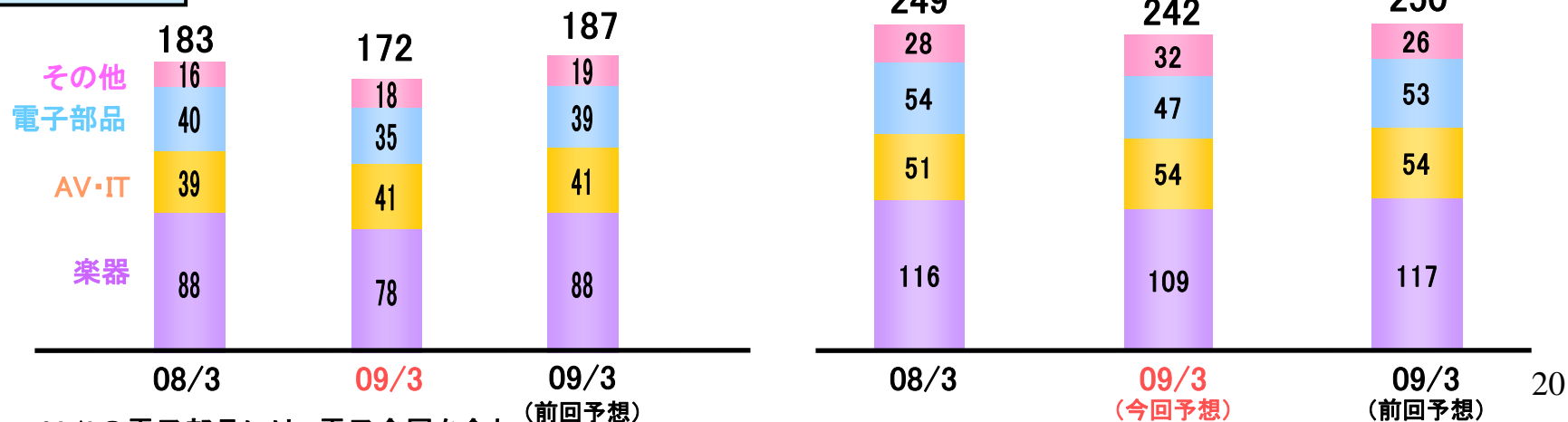
1~3Q

通期

(億円)



研究開発費



*08/3の電子部品には、電子金属を含む。

予想貸借対照表



(億円)

	3Q末			期末予想		
	07/12末	08/12末	増減	08/3末	09/3末	増減
現預金	1,019	438	▲581	1,040	367	▲673
売上債権	851	660	▲191	651	595	▲56
棚卸資産	842	839	▲3	763	777	14
他流動資産	304	309	5	303	299	▲4
固定資産	3,042	2,235	▲807	2,646	2,267	▲379
資産計	6,058	4,481	▲1,577	5,403	4,305	▲1,098
仕入債務	383	309	▲74	350	267	▲83
借入金	305	279	▲26	210	213	3
リゾート預託金	176	169	▲7	170	169	▲1
他負債	1,389	924	▲465	1,243	987	▲256
純資産計	3,805	2,800	▲1,005	3,430	2,669	▲761
負債純資産計	6,058	4,481	▲1,577	5,403	4,305	▲1,098

※現預金残高には譲渡性預金を含む

付属資料

2009/3期 3Q営業外損益、特別損益



	08/3(3Q)実績	09/3(3Q)実績	09/3 (3Q)前回予想
(億円)			
営業外損益			
金融収支	0	1	0
その他	▲5	▲13	▲10
計	▲5	▲12	▲10
特別損益			
固定資産処分損益	2	▲1	▲1
その他	21	▲2	0
計	+23	▲3	▲1
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 100px;"> 投資有価証券損益 26 </div>			
法人税他			
法人税等	▲107	▲1	▲1
法人税等調整額	151	24	30
少数株主利益	2	1	1
計	46	24	30

2009/3期 通期営業外損益、特別損益



	08/3実績	09/3今回予想	09/3前回予想
(億円)			
営業外損益			
金融収支	29	20	24
その他	▲31	▲40	▲39
計	▲2	▲20	▲15
特別損益			
固定資産処分損益	8	▲7	▲7
その他	291	▲3	2
計	+299	▲10	▲5
法人税他			
法人税等	175	33	44
法人税等調整額	47	71	63
少数株主利益	7	1	3
計	229	105	110

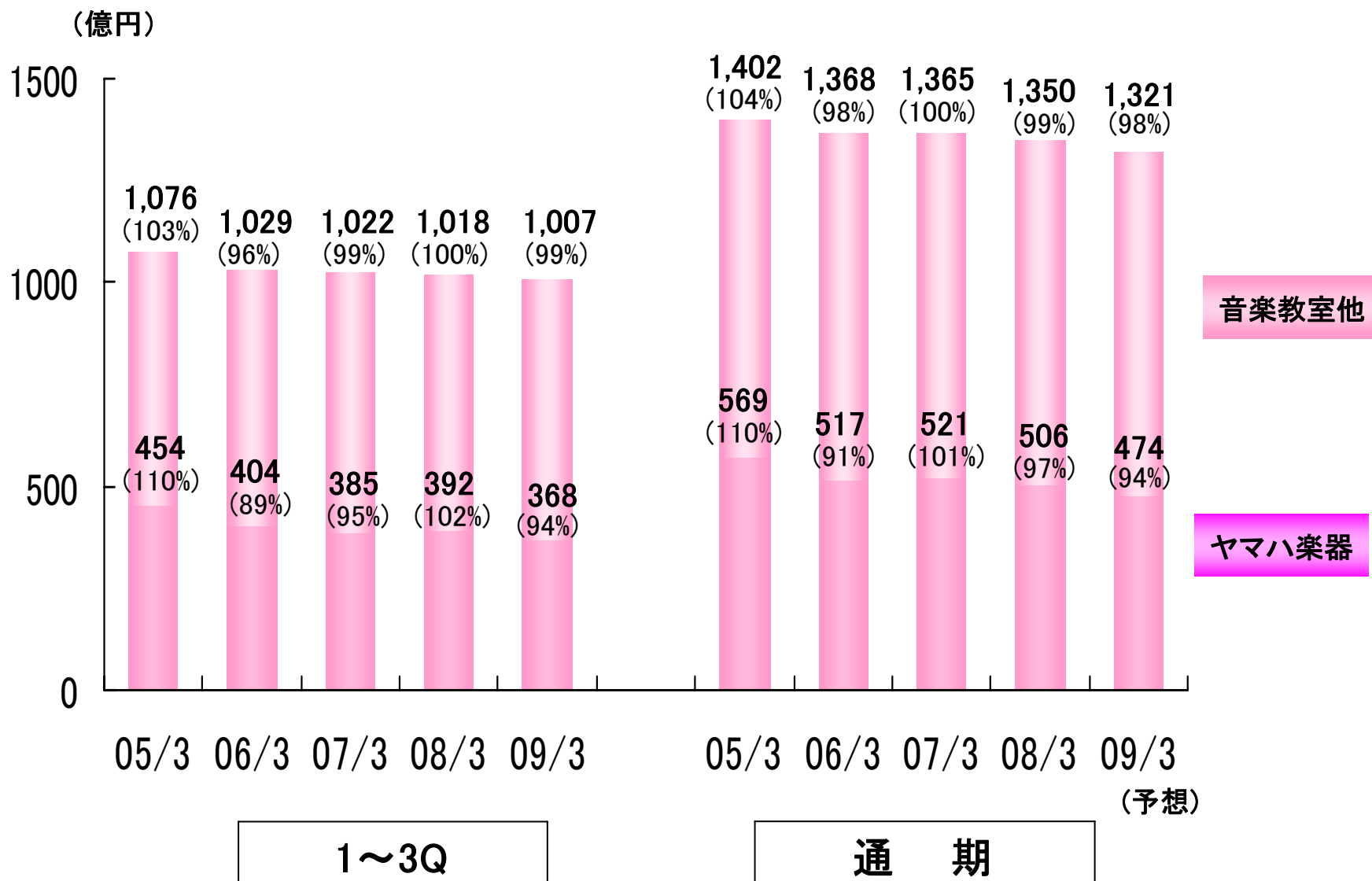
・ヤマハ発動機配当金 17

・ヤマハ発動機配当金 11

・ヤマハ発動機株式売却益 278

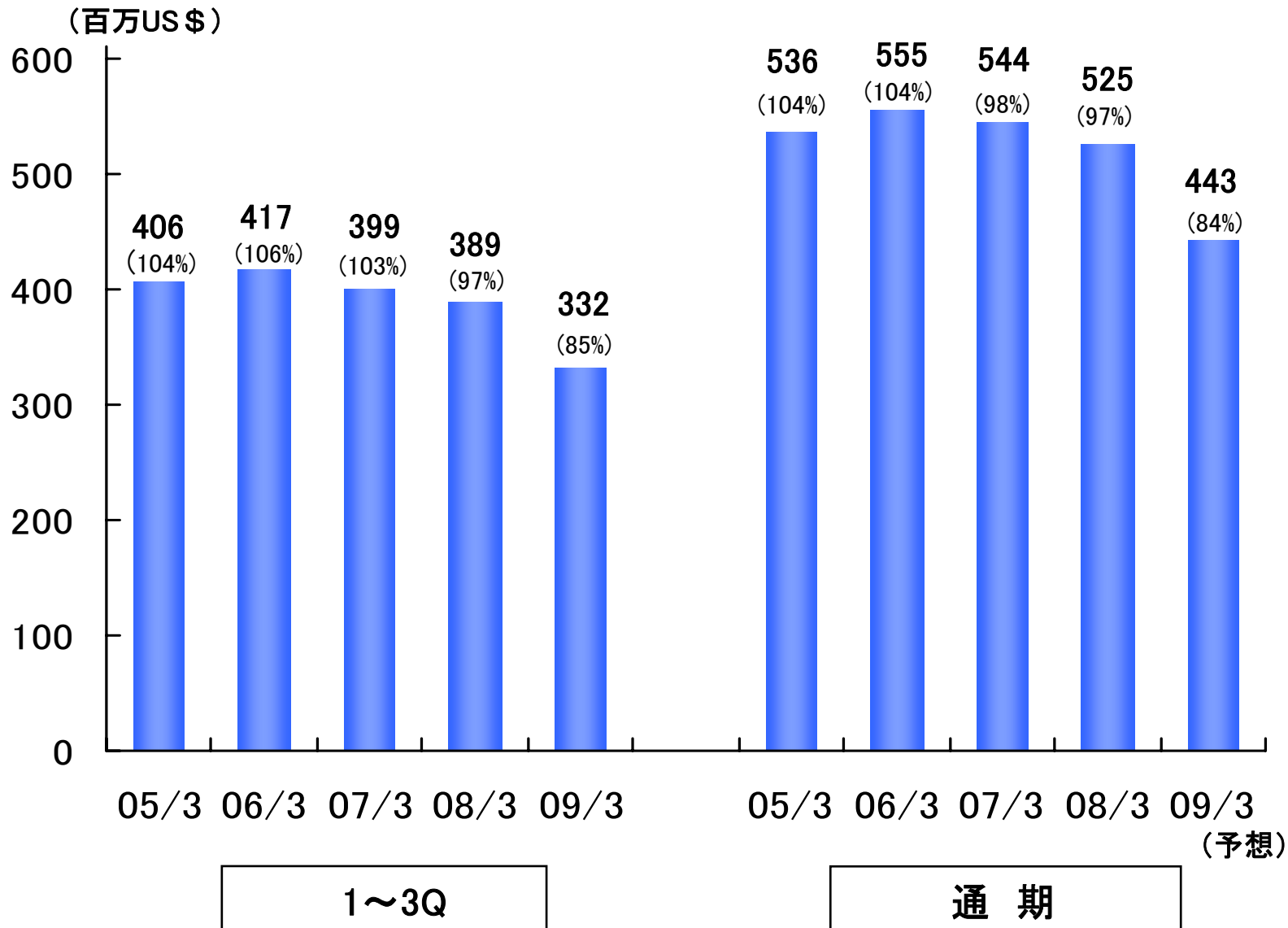
・特別退職金 ▲8

日本市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



()内は前年同期比

アメリカ市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況

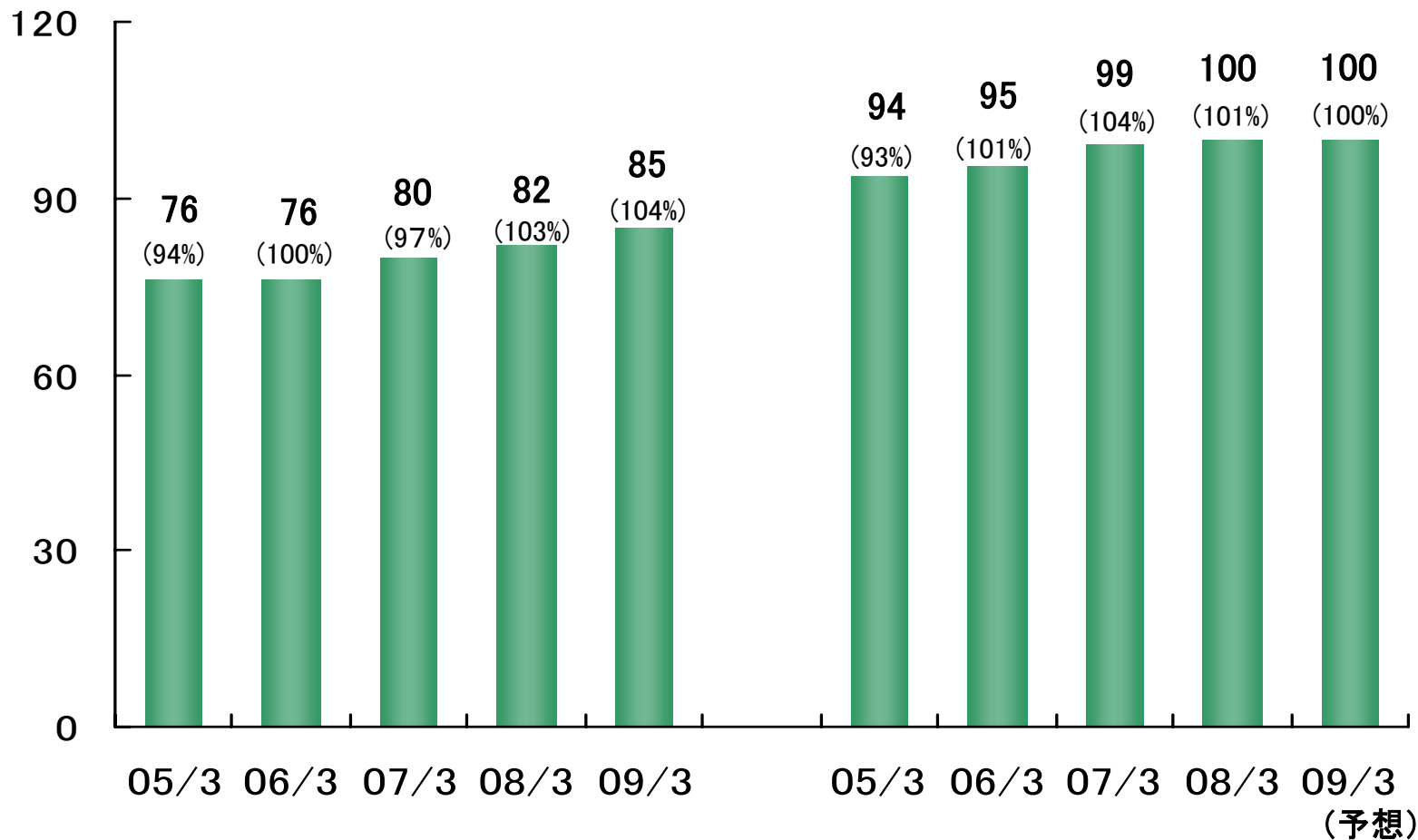


()内は前年同期比

ドイツ市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



(百万ユーロ €)



1~3Q

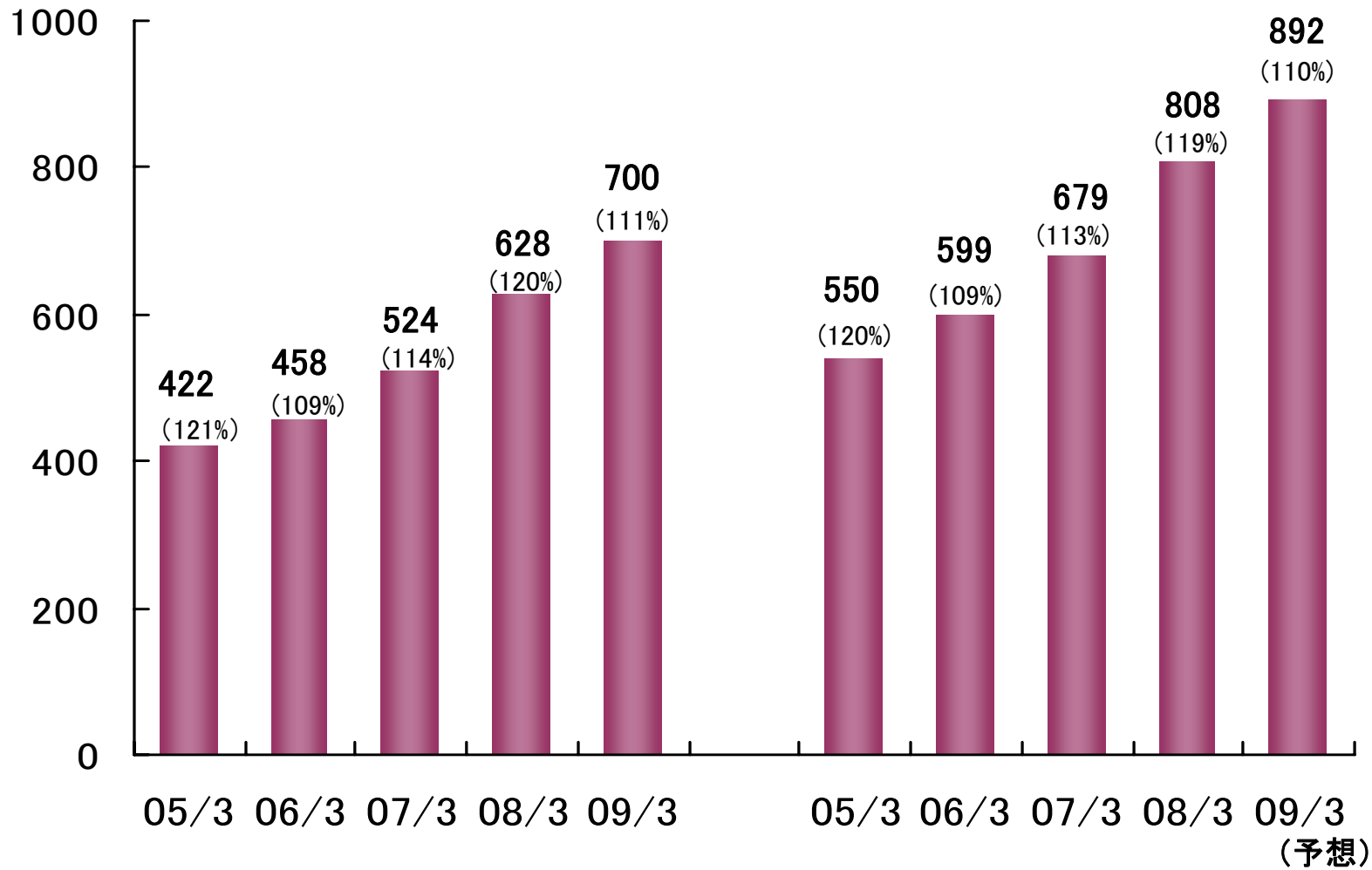
通期

()内は前年同期比

中国市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



(百万人民元)

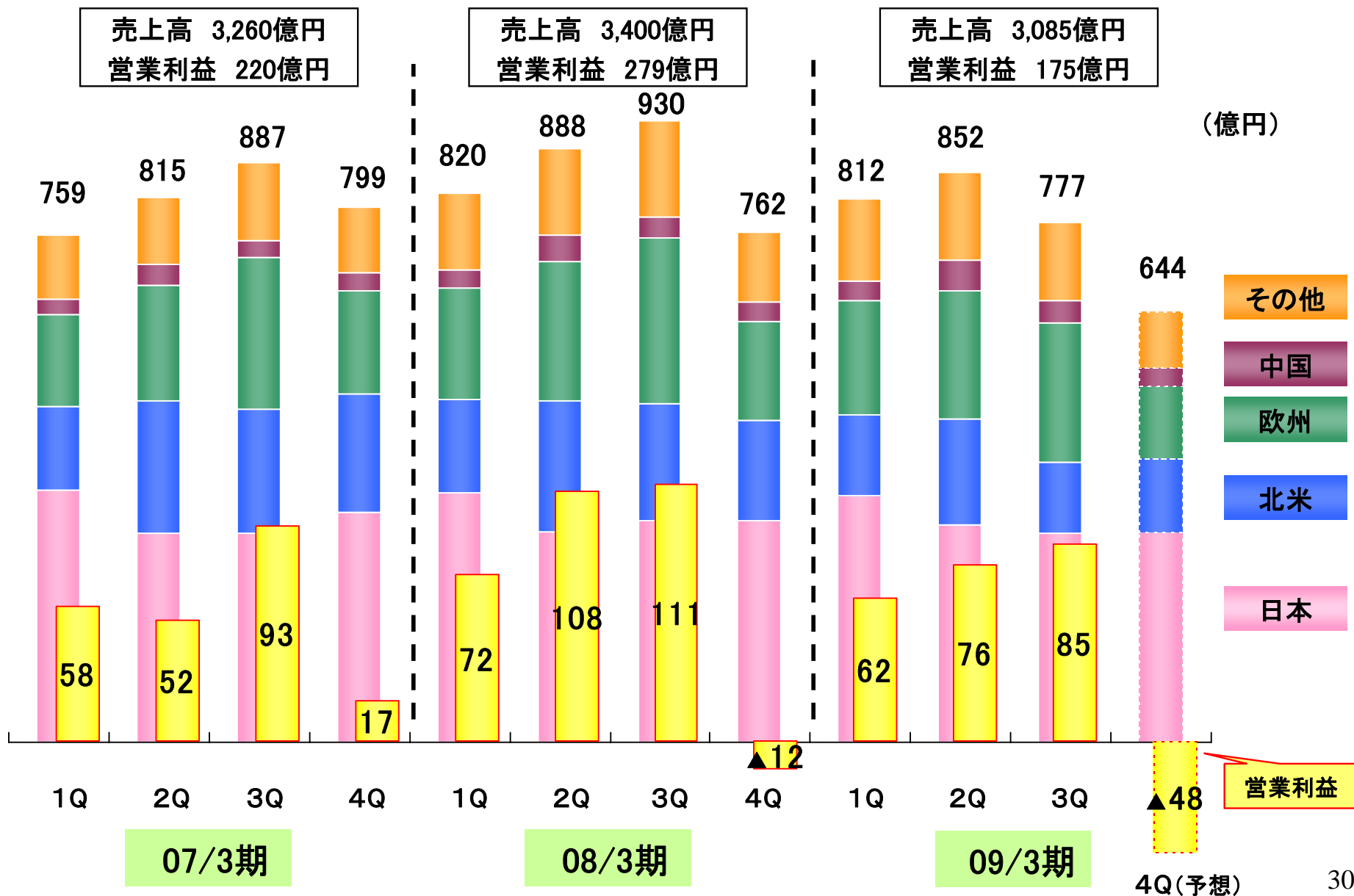


1~3Q

通 期

()内は前年同期比

楽器四半期別売上高／営業利益



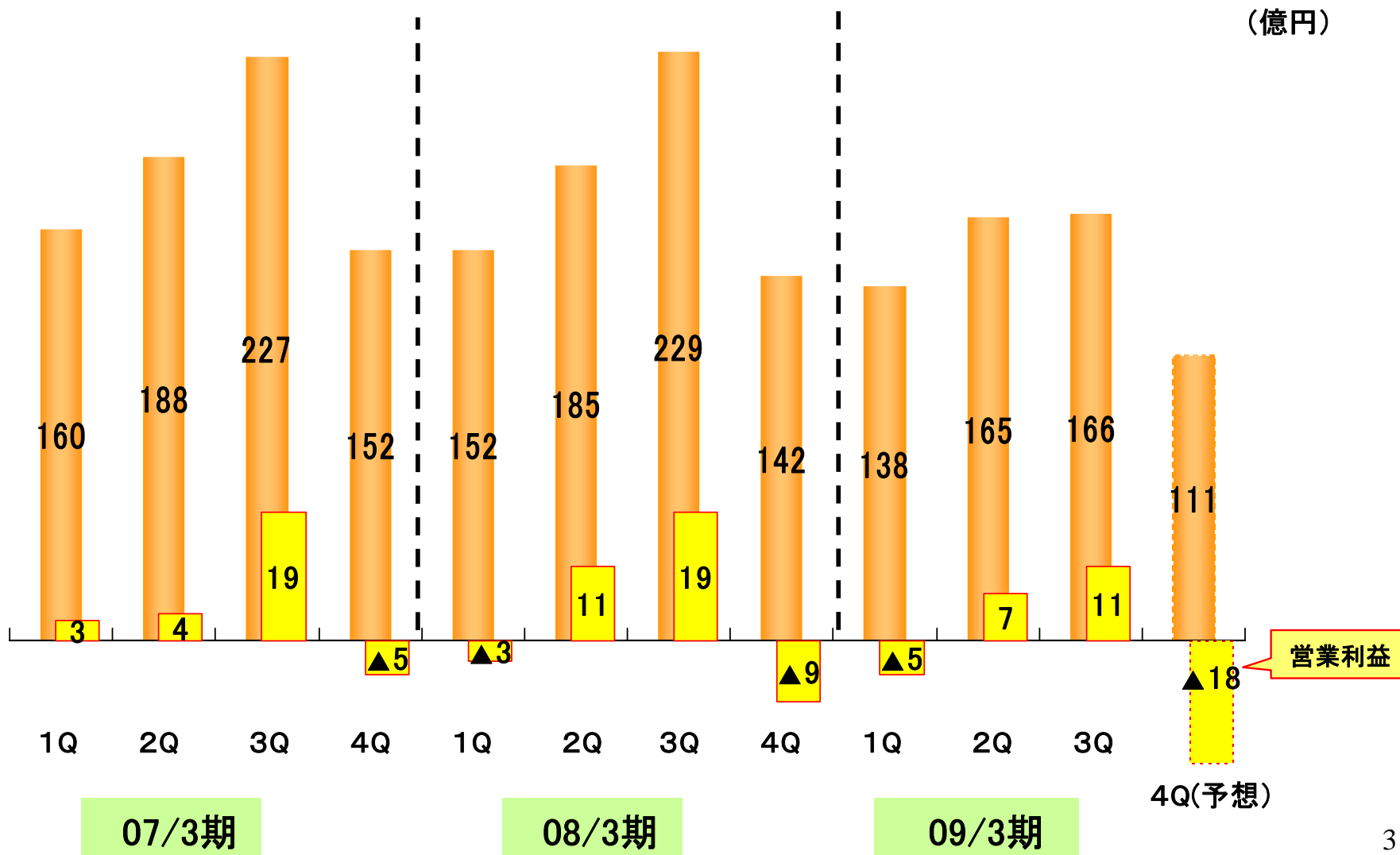
AV/IT四半期別売上高／営業利益



売上高 728億円
営業利益 21億円

売上高 708億円
営業利益 18億円

売上高 580億円
営業利益 ▲5億円



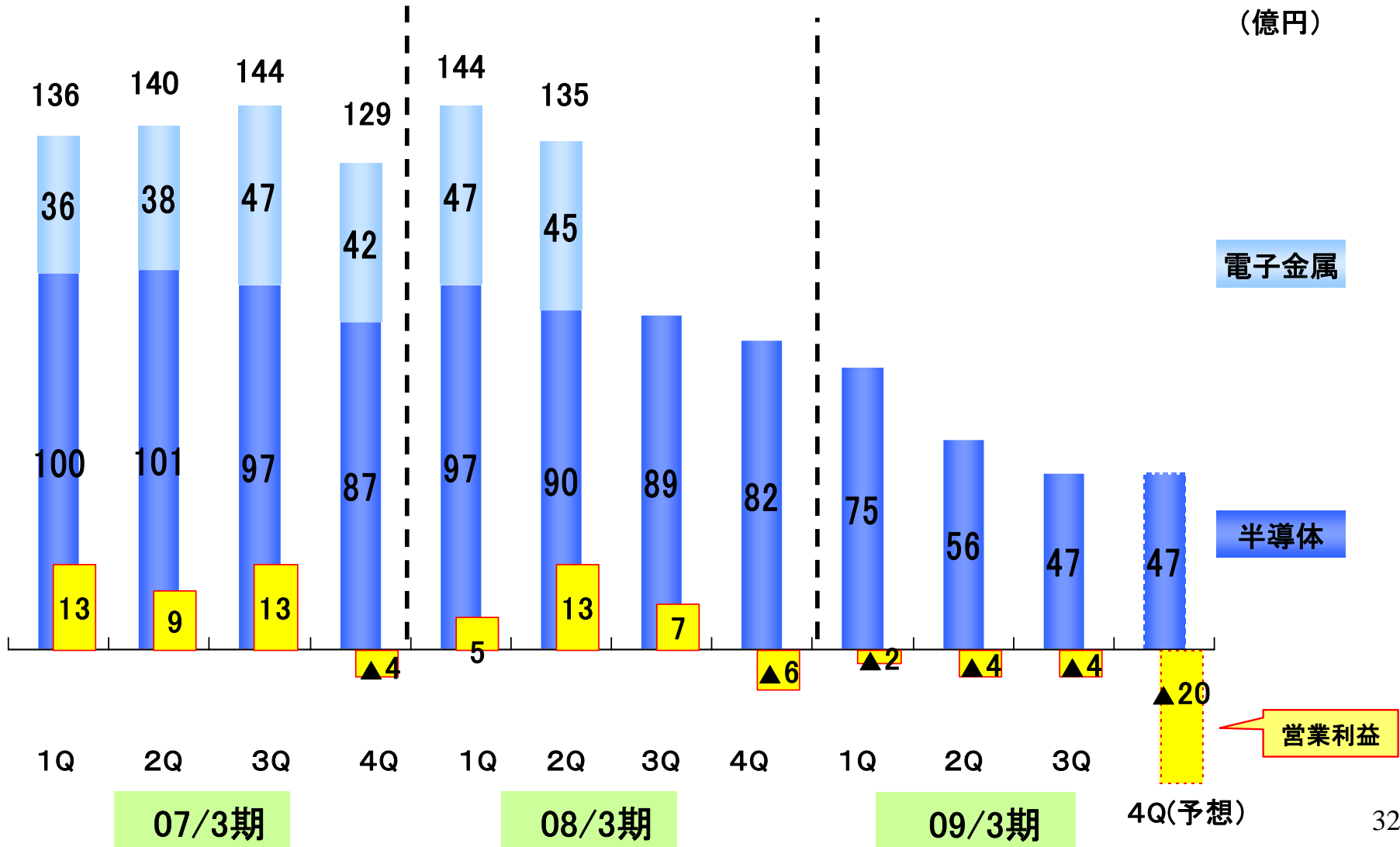
電子部品四半期別売上高／営業利益



売上高 548億円
営業利益 31億円

売上高 450億円
営業利益 19億円

売上高 225億円
営業利益 ▲30億円



リビング四半期別売上高／営業利益

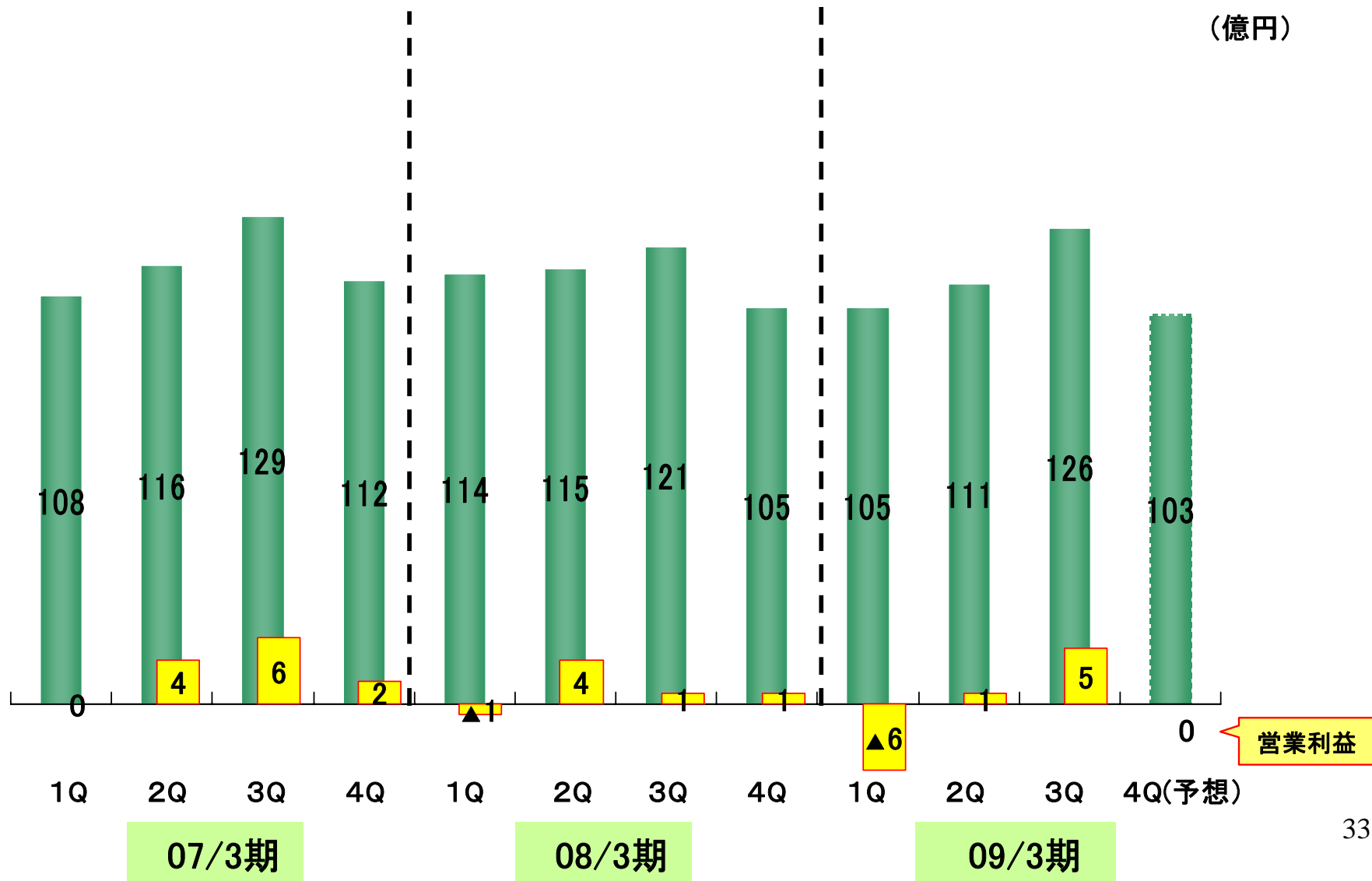


売上高 466億円
営業利益 12億円

売上高 455億円
営業利益 6億円

売上高 445億円
営業利益 0億円

(億円)



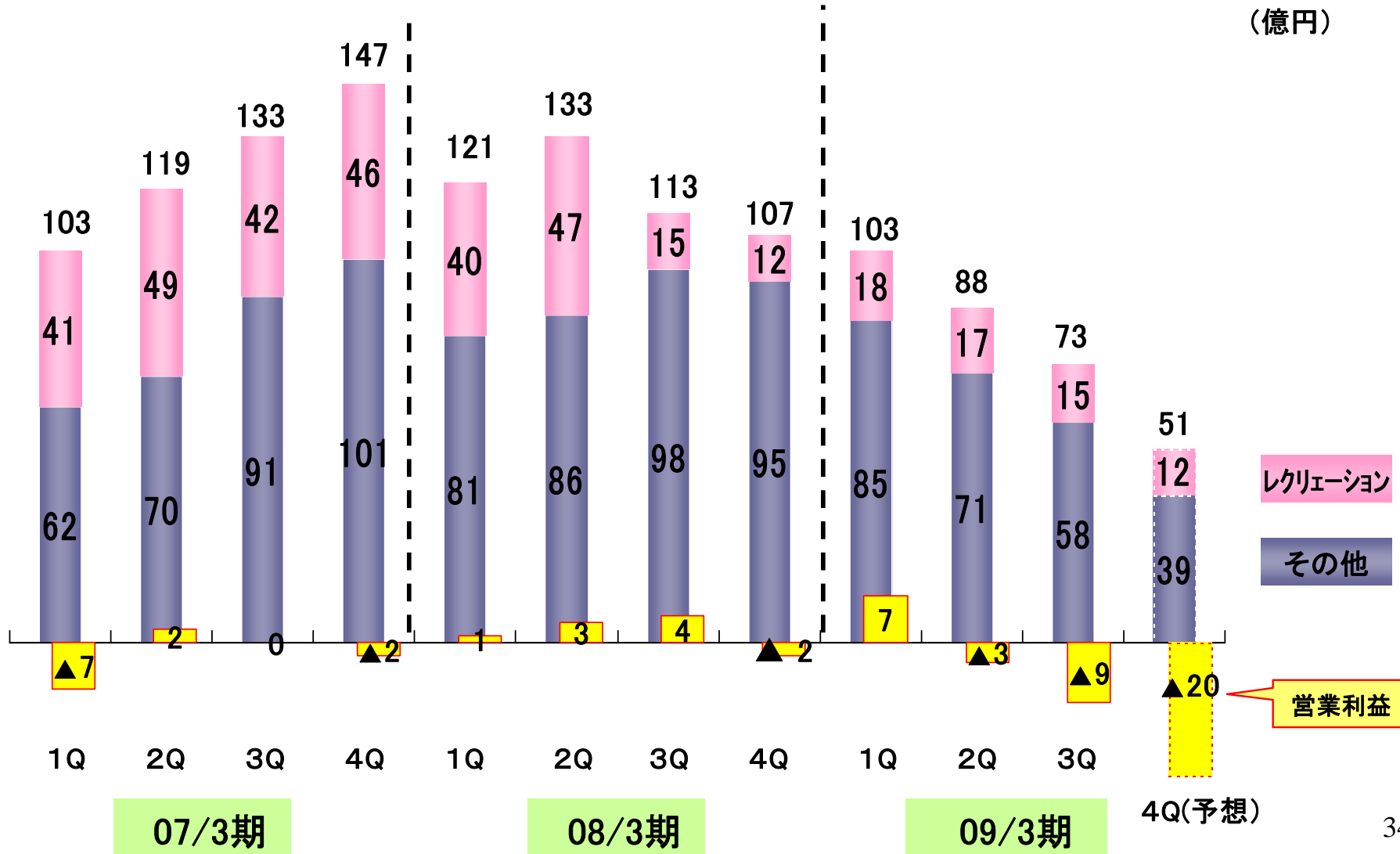
その他四半期別売上高／営業利益



売上高 502億円
営業利益 ▲7億円

売上高 474億円
営業利益 6億円

売上高 315億円
営業利益 ▲25億円



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。